中学国語

助詞 一覧表.1 (格助詞)

年　　組　　番

名前

助詞…活用しない付属語で、必ず他の単語の後につく。文の中で単語と単語の関係を示したり、意味を添えたりする品詞。

格助詞

が	主語	犬が　ほえる。
		動作や状態の主体
		くつが　欲しい。
		要求や願望の対象
		白いのが　欲しい。
		白いのが →（用言＋の＋が）
の	連体修飾語	父の部屋
	体言の資格	青いのが　欲しい。
	部分の主語	彼の　犬が　ほえる。
		（用言＋の）は体言と同じになる
	並立の関係	行くの　行かないのと　騒ぐ。
を	連用修飾語	料理を　つくる。
		（動作の対象）
		運動場を　走る。（場所）
		春休みを　過ごす。（時間）
		駅を　出発する。（起点）
に	連用修飾語	駅に　行く。（場所）
		夜に　行く。（時間）
		走りに　行く。（目的）
		家に　着く。（帰着点）
		弁護士に　なる。（結果）
へ	連用修飾語	学校へ　行く。（方向・帰着点）
と	連用修飾語	優勝者と　なる。（結果）
		彼と　行く。（共同の相手）
		「見る」と　言う。（引用）
	並立の関係	赤と　青が　必要だ。

格助詞

から	連用修飾語	学校から　帰る。（起点）
		大豆から　豆腐をつくる。（原料・材料）
		慌てたから　失敗する。（原因・理由）
より	連用修飾語	白組より　紅組が　いい。（比較の基準）
		謝るより　ない。（限定）
で	連用修飾語	運動場で　走る。（場所）
		電車で　行く。（手段・方法）
		折り紙で　鶴を　折る。（材料）
		風邪で　欠席する。（原因・理由）
		来月で　定年退職だ。（時限）
や	並立の関係	金や　銀の　短冊を　飾る。

※用言に「の」が付くと、体言と同じ資格を持つ。

このため、用言＋「の」に「が・は・も」などをつけると主語となる。

例　青いのが　欲しい。

※このプリントは右の【ポテスクプリント】にて無料でダウンロードできます。

Potaschool Print ポテスクプリント